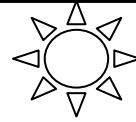




ふちゅう東西南北



# 生涯学習だより

第44号 2013年6月17日

企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」

発行：府中市文化スポーツ部生涯学習スポーツ課

ふちゅう生涯学習センター共同事業体

〒183-0001 府中市浅間町1-7 府中市生涯学習センター

TEL 042-336-5700



## 主な記事

- P.2 新しい生涯学習センターへの抱負  
石田 護朗 (館長)  
松岡 良平 (スポーツ担当)  
山内 啓司 (悠学の会代表)
- P.3 自主グループ紹介  
- 府中踏友会  
- 手づくりエコおもちゃ教室
- P.4 ふちゅう東西南北-白糸台と染屋不動尊

## 生涯学習センターの新しい運営に期待するもの

文化スポーツ部生涯学習スポーツ課長 矢ヶ崎 幸夫

はじめまして。この4月の人事異動で、生涯学習スポーツ課長に着任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

平成5年、市民に多種多様な学習機会を提供する生涯学習の拠点としてオープンした生涯学習センターですが、この4月から指定管理者による管理・運営がスタートし、5月には開館20周年を迎えるなど、今年度は、生涯学習センターにとって非常に大きな節目の年となりました。

指定管理者への移行にあたっては、手続き面も含めて約2年間、生涯学習ボランティアの皆様にもご協力をいただきながら準備を進めてきた甲斐もあり、大きな混乱もなく順調に移行が進んでいると思っております。事務室を改修してスタジオを増設し、講座の充実を図るなど、直営では考えも及ばないような発想は、さすが民間の柔軟な発想ならではと感心しています。

さて、開館20周年ということは、すなわち竣工後20年が経過したということです。生涯学習センターに限らず、府中市が管理する公共施設の多くは老朽化が進んでおり、近い将来、これらの施設の改修や建て替えが必要となるタイミングが一斉にやってきます。近隣自治体と比較しても多くの公共施設を持つ府中市では、今後の大規模改修や建て替えに膨大なコストがかかることが予測されますが、健全な財政状況を維持するためには、公共施設の維持更新にかかるコストを抑制しなければなりません。そのためには、個々の施設ごとに最適化を検討するのではなく、利用状況や維持管理に係るコストなど、様々な切り口から市が管理する公共施設全体での最適化を検討する必要があります。

このような情勢の中、今後も生涯学習センターを末永く運営していくためには、維持管理にかかる費用とサービスの最適化に取り組む必要があります。指定管理者には、より効率的な施設運営による経費のスリム化や、講座をはじめとする各種事業の拡充を図るなど、市民のニーズに合致した施設の運営に努めていただくことを期待しています。



リニューアル記念講演(4月13日、講堂)  
「たった1分で人生が変わる片付けの習慣」  
講師:小松 易 先生

## 7月の生涯学習センター教養講座案内 健康一番!

- 『笑って認知症を予防しよう』 7月6日(土) 松本 光正先生 講堂
- 元気で若々しく! 夏の健康シリーズ <連続講座>
  - ① 「笑って脳を活性化」 7月20日(土) 藤井敬三先生
  - ② 「賢く活かそう東洋医学」 7月27日(土) 長島 寿恵先生
  - ③ 「寝たきり、認知症予防の健康法」 8月3日(土) 金岡 健二先生
  - ④ 「元気で長生きバランス食」 8月10日(土) 広嶋 栄美子先生
  - ⑤ 「物忘れ、ボケ防止の記憶術」 8月17日(土) 藤本 肇先生
  - ⑥ 「認知症予防・ツボストレッチ健康法」 8月24日(土) 浅井 隆彦先生
  - ⑦ 「間違えだらけのダイエット」 8月31日(土) 重本 桂先生
- シニア世代の観光教養講座 7月10日、17日、24日、31日(各水曜日) 上村 脩先生



## 新しい生涯学習センターへの抱負



府中市生涯学習センター  
館長 石田 護朗  
(株式会社 コンベンション  
リンケージ)

市民の皆様が自主的に自己実現できる生涯学習の環境づくりを行うため、指定管理者として生涯学習サポート業務の総合的な連絡調整ができ、地域の担い手となる『生涯学習ファシリテーター』の役割を担い、府中市が掲げる総合計画『心ふれあう 緑豊かな 住みよいまち』と連動した運営と施策を実行していきたいと考えています。

さらに、開館 20 周年を迎える生涯学習センターが、私

ども『ふちゅう生涯学習センター共同事業体』3 社（下記参照）の運営によって、センター設置の趣旨に基づき市民の皆様が、さらに幅広い学習が選択でき楽しく学習できる身近な施設となり、これまで以上に多くの市民の皆様が気軽にご利用いただけるよう府中市、そしてセンターのパートナー『悠学の会』はじめ市民の皆様のご協力並びにご意見を賜り最大の努力を図っていく所存です。休館日を除き、いつでもお立ち寄りいただき、市民の皆様がセンターを身近に感じていただきたいと思います。

- (1) 株式会社コンベンションリンケージ  
/ 施設全体運営、講座・事業企画運営
- (2) 株式会社住友不動産エスフォルタ  
/ スポーツ事業運営管理
- (3) 鹿島建物総合管理株式会社  
/ 施設維持管理・警備

## 「安全」「効果的」「楽しさ」 体育施設運営への抱負



府中市生涯学習センター  
スポーツ関係担当者  
松岡 良平  
(住友不動産  
エスフォルタ株式会社)

4月1日より生涯学習センターの指定管理者ふちゅう生涯学習センター共同事業体の体育施設を担当致します、住友不動産エスフォルタ株式会社の松岡良平と申します。

私たちは、「安全」「効果的」「楽しさ」をキーワードに、皆様が「運動」を好きになっていただくお手伝いをさせていただきます。

トレーニング室の全面リニューアルやトレーニング室内で行なう無料のショートレッスン、新設したフィットネスラボや温水プールで行うお子様から高齢者まで参加できる様々なプログラムを導入致しました。初心者の方向けのプログラムも沢山用意致しましたので、この機会にご参加してみても如何でしょうか。

お問い合わせは総合受付または、体育受付までお越しください。お客様にあった講座をご案内致します。

また、トレーニング室では、いつ来ていただいても初めての方のご案内や目的に合わせたメニューを作成しております。膝・腰・肩・肘・首等痛くてお困りの事がありましたら、お気軽に直接トレーニング室までお越しください。

これからも、体育施設は新しく楽しい運動をどんどん皆様に提案して行きますので、是非、遊びに来てください。従業員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております！

## 三本の矢を育ててみませんか



府中市生涯学習ボランティア  
「悠学の会」代表  
山内 啓司

生涯学習センターに指定管理者制度が導入されて、はや2ヶ月を過ぎることとなりました。

私たち「悠学の会」は、これまでの10年間、行政と協働して、市民の生涯学習を支援するため、様々なボランティア活動を行ってきました。

これまで得た経験から、私たちは、

- 1) 市民のみなさんへの学習情報提供事業  
(学習情報の館内掲示・講座記録誌の作成・情報紙の作成・映像作成など)
- 2) 市民のみなさんへの学習機会の提供事業  
(教養講座・パソコン講座・映像活用講座など)
- 3) 市民のみなさんへの交流機会の提供事業  
(生涯学習フェスティバルの企画・運営、「学びのサロン」など)

を三本の矢として、行政・指定管理者と協働・協創して活動していきたいと思っております。また市民のみなさんからご意見をいただくことが大切で、「面白そうね」、「参加してみたいね」と感じていただけるような雰囲気を醸成することが大切だろうと思っております。

みなさんのご協力をいただきながら、頑張って生涯学習センターを「楽しい学習」の拠点としませんか。

\*\*\*\*\* <<自主グループ紹介>> \*\*\*\*\*

☆ 府中踏友会 ☆

活動状況

毎週土曜日の午前中に活動しており、会員の皆様が正しいダンスを身につけることと、その技術の向上を目指して楽しくレッスンを行ってまいります。

時間配分は基本的に、前半はモダンまた後半はラテン。種目は2ヶ月毎に変わります。親睦のため、年1～2回程度のダンス旅行を行っています。また、他のグループと合同で、ダンスパーティも計画中です。

当サークルは、会員10名〈男性3名、女性7名〉で活動しています。技術レベルとしては中級程度です。

土曜日、都合の悪い方は木曜日夜間19時～20時にもレッスンをおこなっていますので見学に来てください。

講師：三浦克己先生  
 (日本社交舞踏教師協会メンバー、日本ポールルームダンス連盟インストラクター、全日本ダンス協会連合会会員)



活動日時：毎週土曜日〈第5週を除く〉  
 午前10時～11時30分  
 活動場所：生涯学習センターまたは各文化センター  
 連絡先：村野 和男  
 (042-364-3302, 090-9955-9400)

平成25年度 府中市生涯学習フェスティバル

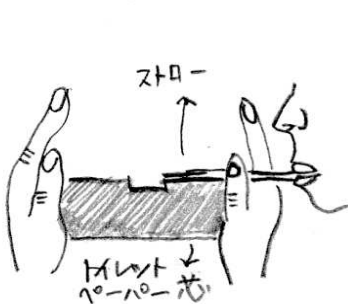
「手づくりエコおもちゃ教室」のご案内

最近の子どもたちの遊びは、サイバー空間でのバトル遊びなど、メカ主流です。いま一度、子どもたちに遊びの原点、手づくりの喜びを体感してもらうため、私たち「悠学の会」有志は、生涯学習フェスティバルで、子ども向けの「手づくりエコおもちゃ教室」を企画しました。

「エコ材料」、「手づくり」、「作って遊びながら学ぶ」を基本とします。

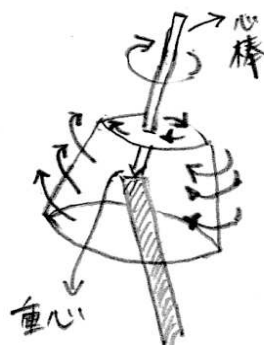
手づくりエコおもちゃの内容

- ①「鳴らす」：トレペのかっこう笛、ストローのリード笛など
  - ②「回す」：マクスウエルのコマ
  - ③「飛ばす」：ストローとんぼ、ストロー飛行機
- これらのおもちゃを手づくりし、実際に鳴らしたり、回したり、飛ばしたりして、音生成のふしぎ、回転のふしぎ、飛びの浮力などを体で感じてまいります。



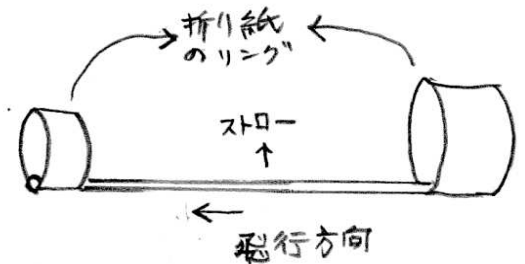
「かっこう笛」

左右の手のひらを開閉して  
ドレミ・・・演奏しよう



「マクスウエルのコマ」

慣性の法則で回り続ける



「ストロー飛行機」

すーっと遠くへ飛んでいく

開催日時：9月8日(日)10時～12時  
 会場：生涯学習センター3階研修室  
 参加対象者：小学生(保護者同伴可)  
 募集人員：先着50名(同伴者は50名の外数)  
 申込方法：当日会場で受付 → 先着順  
 指導：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」  
 「エコおもちゃ応援隊」

お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、子どもさんとご一緒に参加しませんか。童心に返って、おもちゃのふしぎを実感するまたとない機会です。

問い合わせ先：宮原 (042-336-9514)



今回の町の名の由来をたずねては、府中市の東のはずれに位置し、東西に走る京王線と南北に走る西武多摩川線を懐に抱く町、白糸台を調べに、ゴールデンウィークの始めに春の陽気に誘われてカメラ片手に出かけてみました。多磨霊園の正門前の通りをまっすぐ南に、京王線の多磨霊園駅へと向かうこの道は白糸台通りと呼ばれ、この通りが旧甲州街道と交差する所に、染屋不動尊が在ります。ここが、白糸台1丁目の中心で、明治22年の町村合併で他の6村と併せて多磨村になるまで、ここから府中寄りが上染屋村、調布寄りが下染屋村と呼ばれていたようです。比較的、交通量の多い交差点で、いつもは道をわたるのに気を取られて、あまり気にせずに通っていましたが、今日は陽光を浴びてなんとはなしに、お不動さんも威厳に満ちた表情に感じられました。不動尊に入ったすぐ左手に石碑が在り、そこには…地名の起こりは「鎌倉時代に調布（てづくりぬの）を染めたところとか、染殿があったところ」と言われていた…との表記があり、旧上染屋村の名前の由来と思われる。



染屋不動尊

丁度、参道をお掃除されている方が居り、お話を聞きますと、近所の農家の方で、自分で3代目になることでしたが、地名や町名に関しては記録もなく、昔をご存知のお年寄りも今はほとんどおられないので、白糸台の町名がついた由来は分からないとのことでした。その方に教えられて、染屋不動尊から調布寄りの、西武多摩川線を越えたところの白糸台3丁目の角にある神明社という神社にも寄ってみました。この神社は昔の下染屋村の中心にあたり、その石碑には…「神明社の秋の祭礼には染殿神社御祭礼の提灯がいまでも掲げられている」…との表記はあるものの、白糸台の地名などの由来についての記録は一切ありませんでした。仕方なく、その後図書館などで、「府中市の歴史」・「武蔵府中の民俗」などの書物を開いたと

ころ、万葉集に「多摩川にさらす てつくりさらさら」との歌があり、この中に当時を知るヒントがある旨の記述がありましたので、早速、調べてみました。

万葉集の第14巻の東歌、3373番に「多摩川にさらす手つくりさらさらになにぞこの子のここの愛しき」の歌があり、解説では、「この手つくり」は手織りの麻布で、「さらさら」とは、布を白くするために川で洗って日に干すのだ、とのことでした。府中市の文献にも、この手つくりは上等な麻布の事で、武蔵の国から朝廷に献上する産物の一つで、府中・調布あたりが、麻の手織り布の本場、調布（てづくり）の里であったようだ、と書かれています。これで何か、町名の由来の一端がみえてきたようで、更に調べて見たところ、当時は、糸を現在の世田谷の砧あたりでさらしたあと、白糸台にあった染屋に戻して染め、八王子の織屋が織ったといわれており（武蔵府中の民俗）、てづくり稲荷・白糸布（てづくりぬの）・染屋・調布（手つくりぬの）・染地・布多などの染織に関した名が多く残っていることから、現在の白糸台あたりにたくさんの染屋があり、多摩川でさらして白くなった糸を染屋地区で染めていたのは間違いのないと思われます。以上の事などから、昭和34年5月にスタートした町名地番の改正の際に、この地区を旧地名の「染屋」にせずに、白糸台とした意味合いは定かではないものの、川にさらして白くした白糸布（てづくりぬの）から来たのではないかと想像しました。

その後、以前、郷土カルタの取材で神明社を訪ねた事をふと思い出して再度神明社を訪ねたところ、なんと、府中市郷土カルタの「ぬ」の字の…布をさらして白糸・染屋…の碑が神明社の横に立っていたではありませんか。今まで、何をしていたのかと腹立たしくおもいましたが、改めて、想像が間違っていなかったとの思いで、ほっとしました。

皆さんも一度、自分の住んでいる町の名前の由来に挑戦してみても如何ですか。

（注）麻布の原料は当時多摩川に自生していたカラムシの繊維をとり麻糸を作ったようです（多摩の歴史）

（記：根岸 光紀）



郷土カルタの碑

編集後記：ふちゅう東西南北「白糸台と染屋不動尊」のテーマは、かなり勉強になりました。普段いかに無関心で過ごしてきたかを反省させられました。これほど詳しく下調べをし、府中の東側に染物屋が多かった土地柄を見事に探り寄せた結果、次のポイントが分かってきました。①麻布の原料のカラムシは、イラクサ科の植物で、茎を蒸して剥がし、繊維を採ったこと②多摩川でこの繊維を何度もさらして干し、白くした糸を「てづくりぬの」（白糸布）として、染屋地区で染めたこと③染めた糸は、八王子の織物屋で織られたこと、など、何だかミステリアスな探偵になった気持ちになりました。（近賀）

